表 3-2　ハンドテストの量的スコアリング一覧

外的世界への働きかけ反応（統合反応）	
行為対象が人や動物（情緒的働きかけ）の反応 Interpersonal；INT［対人］反応領域	
愛情や友情を表現する対人行為「握手している」	AFFection（親愛）
頼ったり援助を求める対人行為「ちょうだい」	DEPendence（依存）
情報伝達，意見提示の対人行為「何かのサイン」	COMmunication（伝達）
何かを誇示したり顕示する対人行為「踊ってる」	EXHibition（顕示）
他者に指示したり命令する対人行為「指揮者の手」	DIRection（指示）
他者を攻撃したり害を及ぼす対人行為「殴ってる」	AGGression（攻撃）
行為対象が物や環境（行為に目的がある場合）の反応 Environmental；ENV［環境］反応領域	
困難な課題に対する挑戦的要素の活動「崖を登る」	ACQuisition（達成）
人以外の対象への働きかけや日常活動「料理してる」	ACTive（活動）
リラックスや休息するような日常活動「休んでる」	PASsive（受動）
外的世界への働きかけ機能不全反応	
行為の遂行に障害がある反応 Maladjustive；MAL［不適応］反応領域	
無駄なエネルギーの浪費や緊張「怒りの握り拳」	TENsion（緊張）
傷ついたり病んだりしている手「怪我している」	CRIPpled（不自由）
不安感や怯えが伴っている手「怖がっている」	FEAR（恐怖）
行為そのものがなされていない反応 Withdrawal；WITH［撤退］反応領域	
手の絵に関する説明や感想「がっしりした父の手」	DEScription（記述）
手の絵を無視した了解不能な反応「人の顔に見える」	BIZarre（奇矯）
反応拒否や反応不能	FAIL（反応失敗）

＊反応はすべて，上記 15 個のサブ・カテゴリーのどれか一つに分類される。

い場合（20 個以上／日本人の場合は 29 個以上）は，環境のあらゆる側面を構造化しようという強迫的な欲求を意味している可能性があるという。筆者の経験では，強迫症状をもった拒食症の被検者が 50 以上もの反応を出したことを覚えている。

次に，分類カテゴリー毎に反応数が集計され，さまざまな比率や５つの“集約スコア”を算出する。集約スコアは，① ER（体験比率）：個人の心理的エネルギーの性質や配分を総体的に評価したもの，② AOR（行動化比率）：敵意のある反社会的な行動が発現される可能性，③ PATH（病